山梨県介護ロボット導入費補助金について

- 山梨県では、平成27年度から介護ロボット導入費補助金を実施しています。
- 令和２年度までに３５事業所に対して、計１６８台の介護ロボットの導入を支援しました。

山梨県介護ロボット導入費補助金の概要	
事業の目的	介護従事者の精神的・身体的負担の軽減、生産性の向上等を推進するため、県内の介護事業所に対して、介護ロボットの導入費等を支援する。
補助対象機器 及び 補助上限額	○移乗支援（装着型・非装着型）／入浴支援　・・・１００万円 ○その他（見守り機器等）　・・・　３０万円 ○見守りセンサーの導入に伴う通信環境整備　・・・７５０万円 ※いずれも補助率１／２ R2年度に拡充。

- 介護ロボット導入費補助金により導入された機器の例

機器種別	機器名
移乗支援・ 入浴介助	・ＨＡＬ（移乗介助・装着型） ・マッスルスーツEdge、マッスルスーツEVERY（移乗介助・装着型） ・リショーネPlus（移乗介助・非装着型） ・ロボヘルパーSASUKE（移乗介助・非装着型） ・HugT1（移乗介助・非装着型） ・Wellsリフトキャリー（入浴支援）
見守り機器	・アアムス ・見守りケアシステムM2 ・シルエット見守りセンサ ・ネオスケア

山梨県介護ロボット導入費補助金について（導入効果報告書）

- 介護ロボット導入費補助金により介護ロボットを導入した事業所に対しては、導入後３年間、介護ロボットの導入効果について報告を求めています。

【報告いただく項目】

①業務時間の短縮、②直接・間接負担の軽減、③職員の満足度、④利用者の満足度

導入効果報告書を踏まえた
介護ロボット導入のポイント

介護ロボットは、適切に活用することで、介護職員の方々の精神的・肉体的な負担軽減につながります。

✓ ただし、介護ロボットを実際に使ってみると、ちょっとした使い勝手の悪さや、工夫が必要な点が見えてくることがあります。介護ロボットの導入後は、「このように使ったらもっと活用できそう」、「このような状況には気を付けよう」など、職員同士で気付いたことを共有していくことも必要です。導入したら終わりではなく、導入後の取組みも見据えてください。

- 例えば、介護ロボットの活用を推進するリーダーを置くことを検討してください。（一人に負担が偏らないように複数名置くことも検討してください。）リーダーは、職員が機器を使用する上で感じている不安や工夫している点をくみ上げて、改善策等を検討します。（職員全員で検討しても良いです。）職員全員で共有すべきことはリーダーを通じて共有します。
- 導入初期のうちは、機器を使った職員が感想を記録し、職員全員に共有することを検討してください。少しでも早く機器を活用するコツをつかむとともに、取扱説明書から把握できなかった注意点や上手に使うポイントを職員全員で共有します。

✓ また、<u>介護ロボットの導入前に、①課題は何か？　②課題に対してどのような機器を導入して、どのように活用するのが効果的か？　を十分検討してください。</u>

- 導入する機器を検討するにあたっては、介護ロボットの導入事例集（「介護ロボット導入活用事例集2020」厚生労働省　等）を参考としたり、介護ロボットメーカーへ問合せるなどしてください。（試用貸し出しを行うメーカーもあります。）

次のページから、既に介護ロボットを導入し、活用している事業者の皆さんの声をまとめていますので、介護ロボットを導入する際の検討材料としてご活用ください。

介護ロボットの導入効果について 【①業務時間の短縮】

介護ロボットを導入した事業所からの意見（自由記述）

	移乗介助・入浴支援機器	見守り機器
◎効果が見られた点	• スムーズに入浴支援できるようになったので、精神的な余裕が持てた。より一層利用者への声かけや安全面への配慮が可能になった。 • 移乗介助の時間が短縮された。	• 利用者の方々の夜間の傾向を把握し、事故を未然に防ぐことができる。 • ベッド上での動きが分かり、効率的に訪室できるため、様々な業務を効率的にこなすことができる。 • 目が覚めた時点でトイレ誘導できるようになり、リネンや着衣交換回数を減らすことができた。
■工夫が必要な点	• （移乗介助）装着するまでにやや時間を要する。 • 慣れるまでの時間が必要。 • 時間短縮においての大きな変化はない。	• 最初のうちは、センサーの調整が難しく、見守る回数が多くなった。 • 時間短縮の実感はあまりない。

上記まとめ

【移乗介助・入浴支援機器】
- 移乗介助・入浴支援機器は、介助をする者と介助を受ける者との体格差等にかかわらず、両者の身体的負担を軽減しながら安心安全な介護を提供できる。
- 機器を使用して安全かつスムーズに介助することで、業務時間を効率化することができる。

【見守り機器】
- ベッド上の動きを把握する機器を使い、効率的に部屋を訪問することで、特に夜間帯に削減された時間を別の業務に充てる等の工夫が図られる。

【共通】
- 機器を使いこなすまでは、通常より業務時間を要することも想定される。機器活用を推進するリーダー等を設置し、機器の活用研修の実施やマニュアル作成に取り組んだうえで、実際に機器を運用する段階でも職員をフォローする等、使いこなすまでのサポート体制を整えることが必要である。

介護ロボットの導入効果について 【②直接・間接負担の軽減】

介護ロボットを導入した事業所からの意見（自由記述）

	移乗介助・入浴支援機器	見守り機器
◎効果が見られた点	• 腰の負担が軽減された。使用頻度が高い職員は特に効果があらわれた。 • 2人で対応していたところを、機器を使って１人で対応できるようになった。 • 少人数の職員でも移乗対応できるので、利用者にフロアに移動してもらい安全に食事提供ができる。 • 予定時間内に入浴が完了するようになった。	• 利用者の事故防止に貢献できるので、精神的負担が軽減された。 • 訪室が必要な時間帯を把握できるので、見守り以外の業務に充てる時間を確保するなど、業務の効率化につながっている。 • 業務が効率化したので、利用者とのコミュニケーションの時間を多く取れるようになった。 • 収集したデータにより、利用者の体調変化にすぐ気付くことができる。
■工夫が必要な点	• 使用する職員の体格によって、使い勝手が異なる。 • 介護ロボットのサイズに応じた使用場所、作業内容を検討する必要がある。	• 床に敷くタイプのセンサーマットでは、訪室時には転倒してしまっているケースもあった。ベッドのマットレス下に敷くタイプのセンサーマットでは、ベッド上の動きが感知できるので、事故防止に貢献している。

上記まとめ

【移乗介助・入浴支援機器】
- 職員の身体的負担の軽減が期待される。また、機器を正しく使用することで事故防止になるため、利用者の安全が確保される。

【見守り機器】
- 職員の精神的負担が軽減される。マットレス下に敷くタイプやセンサー感知タイプは、ベッド上での動きが分かるため転落を未然に防止でき、入居者（利用者）と職員両者の安心感につながる。

【共通】
- 負担軽減効果を得るためには、機器導入前に①改善したい点を明確にすること、②①を踏まえて、介護ロボットを使用する場面や機器の使われ方を想定する必要がある。（改善策にマッチした機器かよく検討すること。）

介護ロボットの導入効果について 【③職員の満足度】

介護ロボットを導入した事業所からの意見（自由記述）

	移乗介助・入浴支援機器	見守り機器
◎効果が見られた点	• 腰痛が軽減された。 • 浴槽をまたぐ際に危惧されていた転倒やふらつきの危険が軽減され、身体的、精神的負担が軽減された。 • 勤務後の疲労感が低減した。 • 介護ロボットという先端技術を使用することに対して関心を持って対応してくれる職員もいる。 • 機器の操作が簡単で良い。	• 事故発生のリスクが低減されることで、精神的負担が軽減された。 • 利用者の動き出しを把握できるので、怪我や転倒のリスクが軽減されて満足。 • 夜間帯の負担が軽減されて満足。 • 看取り期の利用者の心拍数や、呼吸数が常に把握できて、事業所内やそのほか関係者との連携がスムーズに行える。
■工夫が必要な点	• 緊急時に即時に機器を取り外して対応することができない。着脱が不便。重い。 • 使用する状況によっては、ずれ防止のクッションなどが必要なときがある。 • 機器のサイズが合わず試用できなかった。（小柄な方は使用できないことがある。） • しゃがむ姿勢が難しい。	• 職員全員が活用方法を会得するには、少し時間が必要である。

上記まとめ

【移乗介助・入浴支援機器】
- 装着型の機器は、機器を使用する職員の体格や使用する場所、介助する内容により、効果に違いが見られる。このため、導入を検討する場合は、事前に活用する場面を想定しておくことが重要。機器の操作性についても確認する。

【見守り機器】
- 事故の発生リスクが低減されることが、職員の負担軽減（満足度）につながっている。

【共通】
- 事前に機器を活用する場面や使用する職員等を想定したうえで機器を導入すること。

介護ロボットの導入効果について 【 ④利用者の満足度】

介護ロボットを導入した事業所からの意見（自由記述）

	移乗介助・入浴支援機器	見守り機器
◎効果が見られた点	• 力任せでなく、丁寧な介助になったとの声が聞かれた。 • 機械なので遠慮せず体重を掛けられる。 • 座位で移動できるので、寝たまま平行移動する機械浴よりも不安感が軽減されている。 • 支援してくれる介護職員の負担軽減は必要であり、腰痛予防になるのであれば、活用してもらえると良いと考えていただいている。 • 体調に応じて入浴の選択肢が広がった。	• 利用者の眠りの質が向上した。 • 睡眠時の異常発見につながり、家族にも喜ばれた。 • 病院へ夜間の睡眠データを提供している。 • 職員と利用者のコミュニケーションが増加したことで、満足されている。 • 職員の訪室が早くなり満足しているとの声がある。 • 使い慣れたベッドで機器を活用できるので良い。 • コールボタンを押せない方も、トイレに目覚めたときに職員が迅速に対応できる。
■工夫が必要な点	• 初めて機器を使用する利用者の中には怖いと感じる方もいる。	なし

上記まとめ

【移乗介助・入浴支援機器】
- 利用者が初めて機器に触れる際は、丁寧に説明することで、安心して介助を受けることができる。
- 機器であれば遠慮せず身体をあずけられる、座位移動は不安が軽減されるなど、利用者の安心につながっている。

【見守り機器】
- 睡眠の状態を収集することで、利用者の健康維持に役立っている。
- また、機器導入前とほぼ変わらない生活環境であると、より安心した暮らしにつながる。

【共通】
- 機器による介助に抵抗感がある利用者もいると想定されるので、利用者に丁寧に説明することが必要である。